

館林文化史談会 野外研修 「秋元氏発祥の地・秋元荘を訪ねて」 報告

日時 : 令和元年5月19日(日) 7:00出発 16:30帰着

コース : 千葉県君津市

久原寺～清和公民館～八幡神社～秋元(小糸)城址～上諏訪神社・下諏訪神社～
妙喜寺～天南寺



首都高の混雑もうまく避け、予定より早く君津の秋元荘の地に到着。真言宗(智山派)・関東八十八ヶ所霊場(第52番目霊場)である久原寺(くばらじ)の近くでバスを降りる。この先はバスの通行が無理な細い道路のため。この寺は秋元義正祈願所で秋元城の東北に当ることから、鬼門除けにされたと伝えられる。実はこの先がなだらかな登り道。それ程の距離ではないが、早く着いた貯金を使い果たす。



久原寺前から秋元城址の方角を見る。正面の大きな山は鹿野山であり、その手前に秋元城址がある。この場所と秋元城址の間には城の名前にもなっている小糸川が左から右に流れている。(結構深い渓谷になっているので、この場所からは川を見ることはできない。)秋元城氏は矢印の辺りと思われる。



清和公民館前にある橋から見た小糸川。千葉県は日本一の砂生産県で、千葉で採取された砂で羽田空港や東京ディズニーランドの埋め立てが行われたそうである。その他にも多くの建設現場で使用されている。しかも山砂ということで、この辺りの山も岩や土というより砂で作られているものが多そうである。(途中、山全体が砂で、そこから砂の採取が行われている現場をたくさん目にした。)その脆さゆえに、深い渓谷が容易に出来たのと考えられるが小糸川も深く削られた川である。写真では判然としないであろうが、撮影場所は水面から結構高い場所である。



君津市清和公民館で小さいながらも秋元城址の説明・展示コーナーがある。大人数でお邪魔するので事前に連絡しておいたところ、秋元氏に関する君津市作成のパンフレットを送っていただき、訪問当日は参加者人数分、同じ資料をご用意いただいた。また、『戦国山城フォーラム「秋元城と秋元氏をめぐる町」記録集(平成16年度)』という貴重な史料もお送りいただき、たいへん参考になった。



清和公民館の秋元城址の説明・展示コーナーである。秋元氏と城址に関する資料と城址調査の際に発掘された出土資料が展示されている。小さいながらも、このように常設展示されることで、秋元氏や秋元城址の歴史は文化として地域に残るのであろう。



城址から発掘された出土資料の展示。写真は瀬戸・美濃釉皿と景德鎮窯系の染付皿で、共に16世紀に作られたものと鑑定されてようである。他にも瀬戸・美濃鉄釉擂鉢や茶入れ、かわらけなどの展示があった。



清和公民館から清和小学校の南側を通って八幡神社に到着。秋元氏の守り神様で、そこから秋元城内にも分祀されている。秋元氏の名の書かれた棟札があるということであるが、拝見することはできなかった。なお、拝殿入口には「八幡神社」の扁額と共に、「西粟倉公会堂」の看板も掛けられていた。地域の集会所としても使用されているのであろうか？



秋元城跡の標識と城址の説明板。この後が秋元城址である。なお、中央辺り、城跡に開けられた穴は当時のものではなく、後に作られたものである。

【秋元城】別名小糸城、戦国時代の山城であり、里見氏の家臣であった秋元義正により築城される。北条氏の上総侵攻により、義正の子の義久が討ち死にして廃城となる。(義正については「義政」「善政」とも書かれる。)



秋元城を構築している山肌の露出。先に説明したようにこの地方の山はこのように砂で作られているものが多い。(房総砂丘で作られた地層)手で簡単に崩すことが出来そうである。

秋元城もこの加工しやすい性質を生かして、周囲に深い崖を巡らせている。築城は、彫刻で木を削るよりも簡単に、砂山に城郭を掘り出すことができたのではないだろうか。



小糸城碑(土塁、城址碑あり)…秋元順朝氏建立(小学校北西へ約250m 標識在り)

・昭和36年に石碑が清和市場秋元城址の入り口に建てられている。<表面>には、「小糸城々址 村長川俣義郎」とあり

『小糸城ハ嘉禄かろく年間1225-8年北条泰時ガ執権ノ時カラ、戦国時代ヲ経テ徳川時代ノ初期マデ、秋元氏ノ居城デアツタト伝ヘラレ、コノ地ハ秋元庄、後ニ秋元村ト称セラレタ(※改行)右ノ史実ヲ伝エルタメ、君津郡清和村市場地区民相謀ツテ、城址ニコノ碑ヲ建立スル』

<裏面には協力された土地の人々の氏名が刻まれている。>



秋元城址の入り口である。ここから急峻な登り道が続く。



最初に着いた平坦な広場で、根古屋で家臣の住居があったと考えられている。



さらに上を目指す。
高齢者が多かった割には、皆さん、とても元気で山道を力強く登る。



ここには「虎口」と説明板が付けられていた。攻撃を防御しやすくするために城郭への道を狭くしてある。



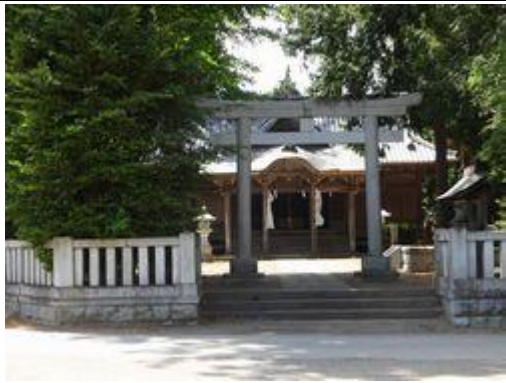
山の上で最も広い曲輪の「千畳」である。千畳敷きの意であろう。
なお、主郭部は斜め左方向であと少しであるが、道が続いておらず、帰りの体力のこともあるのでここで引き返すことにした。



引き返す前に千畳の前で記念写真。



秋元家祈願所で上諏訪神社と下諏訪神社があり、秋元氏が秋元郷37ヶ村の惣社(鎮守の神社)としたと伝える。こちらは下諏訪神社であり、上諏訪神社とは向かい合わせに建てられている。



こちらが上諏訪神社である。鳥居玉垣建設の碑が建てられており、篆額は秋元春朝の書で「醇俗竭誠」と書かれている。



曹洞宗で秋元家の菩提寺の一つ。永正5年(1508)秋元善政開創とされ、秋元家の墳墓、位牌、過去帳、陣幕がある。ただし、現在は無住のために墳墓の見学のみとなった。



秋元氏の墓碑であり、墓の前に据えられた「閼伽入れ」は、正面に秋元氏の家紋が彫られている。



志朝公の名代として家臣が「天南寺」「妙善寺」「諏訪神社等」を訪問したという記録がある。この碑には文久3年(1863)「秋元家古墳之地」とあり、その時に建てられたものと考えられる。(天南寺にも同じ石碑が建てられている。)



寛永時代に亡くなった根岸重高夫妻の五輪塔である。
この墓地には根岸姓の墓がたいへん多い。秋元家にも根岸姓の家臣は江戸時代からおり、幕末には3家あった。その中で根岸鉄次郎は中老も務め、明治になってからは第四十国立銀行の初代頭取など館林財界の中心人物として活躍した。



曹洞宗でこちらも秋元家の菩提寺である。寛正元年（1460）秋元一政が祈願所とし、文明2年（1470）堂宇を建立したとされる。堂内に秋元氏の位牌が、境内に同氏の墓（五輪塔）がある。
訪問した当日は本堂に上げて頂き、秋元氏の位牌も拝見することができたのは僥倖であった。ご住職のご厚意に深く感謝申し上げます。
（位牌の写真撮影もご許可いただいたが、ホームページ掲載までは話していないので省略する。）



境内にある秋元義政夫妻の五輪塔である。五輪塔やその前の闕伽入れにも正面に秋元氏の家紋が刻まれている。五輪塔の墓碑には「文化5戊辰歳」1808年の10月吉日再建とある。